

2代目社長の通彦氏は代表取締役会長に

(株)エフ・イー社長に専務の佐々木雄大氏

旭川を代表する農業関連機器メーカー「(株)エフ・イー」(旭川市工業団地3

条2丁目)で6月11日、株主総会が行われ、佐々木雄大専務の社長への昇格が決まった。佐々木通彦氏は代表取締役会長として、新社長の経営サポートに携わるとしている。

同社は、通彦氏の父・通氏が1959年に創業した佐々木鉄工所が前身。68年に法人化、88年に資本金を1000万円に増資して株式会社とし、

社名を「(株)佐々木鉄工」に改称した。

91年に2代目の通彦氏の社長就任時に、「(株)甲斐鉄工」と経営統合し、現在の「(株)エフ・イー」になった。また、本社所在地も現在、同社第2工場となっている豊岡4条5丁目から、今の工業団地3条2丁目へと移転している。

その後、2002年に販売を開始した「大根洗浄機」がヒット。世界初の葉付きダイコンを連続で洗浄できる装置で、同製

品の成功に続き、バレイシヨ、サトイモなどの「野菜皮むき装置」や、バレイシヨ、ニンジン、玉ネギなどのカメラ式形状選別機も開発・販売し、今では

ニンジン、長イモ、サツマイモなど根菜類の洗浄・選別装置メーカーとして国内のみならず、海外にもその名が知られている。

これらは、いずれも通彦氏の手腕によるものと言われている。この間、会の発展に伴って若い社員も増え、役員も全員

が40代と社内体制も一気に若返りを図った。また、通彦氏自身が北海道農業機械工業会会長や旭川工業

団地協同組合理事長

など公職を数多く務め多忙なことから、同氏の社長就任から35年目の節目となることもあり今期で代替わりを決断したという。

新たに社長に就任した佐々木雄大氏は、1984年6月生まれ、42歳。旭川高等技術専門学院電子工学科を卒業後、2011年にエフ・イーに入社。15年8月に常務取締役、20年6月から専務取締役を務め、24年には市内の鉄工者界若手の集まりである旭川鉄工青年会会長に就任(任期は1年間)。業界的にも、次代を担うリーダーとして期待されている。

社長就任に当たり雄大氏は「今、私たちの業界は

世界的潮流の中で淘汰の時代を迎えています。中国の台頭やASEAN諸国の伸張の一方、相対的に日本の国力が落ちており、国内のみに目を向けていては、いつか頭打ちの可能性もあると懸念しています。自分たちが積み重ねてきたことを大事にしつつ、新規の製品の開発、または新たな販路を拡大していくかなければ生き残っていくことは難しい。これまでの当社の実績を糧に、さらにアップデートしながら世界市場へと打って出ていきたい」と抱負を述べた。

通彦氏も今回、社長が交代したことで経営陣の若返りが図られた。新たな体制の下、若々しいチャレンジングな姿勢で、これからの混沌とした時代を乗り切ってもらいたい」と話している。



佐々木雄大社長



佐々木通彦代表取締役会長